

2025 年度(令和7年度)学校評価自己評価表

駅家中学校区	校番 82	福山市立駅家北学校
最終更新日		2026年(令和8年)2月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 各学校が特色ある教育活動を推進している。活動のねらいや内容も明確となっている。今後も学校と地域がより連携し、地域人材の活用、地域貢献等、地域の教育力を活かしながら児童生徒の主体的な探究学習を推進してほしい。	児童生徒の現状 ○全国学力調査では、全国平均を下回っている。低学力の子どもが多く、学力定着に課題がある。 ○児童生徒は地域への愛着があり、地域の方々との交流や地域貢献活動に意欲的に取り組むことができる。	育成する資質・能力 めざす子ども像(義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	〈中学校〉思考力 コミュニケーション力・協調性 意志決定力・志 〈小学校〉課題発見・解決力 コミュニケーション力 挑戦する力 ○日常生活の中に課題を見つけ出し、自分の知識を総動員して答えを導き出す。 ○他者との関係を協調的に築きながら、自分の考えを発信し、仲間と課題解決する。 ○自分の人生を切り開き豊かな未来を創ろうと見通しや展望をもち自己決定する。 ○「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」を研究テーマとする。 ・学力調査の分析から課題をつかみ具体的な手立てを研究し、授業改善を進める。 ・自分の考えや思いをもたせ、相互交流の中で考えや思いを深める、全員参加の授業づくりを目指す。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

III 自校

ミッション 地域や保護者の信頼に応え、地域住民から愛される学校を地域と共に創造する
学校教育目標 主体的に学び 仲間と共に 伸びゆく子どもの育成
現状 <児童> ・「授業が分かり、考えることが楽しい」肯定的回答88%(全校児童) ・「自分には良いところがある」肯定的回答86%(全校児童) ・「自分は進んで体力づくりを行っている」肯定的回答78%(全校児童) ・新体力テストの結果より、運動は好きだが、運動をする機会が少なく、筋力、巧緻性、瞬発力が低い傾向の児童がいる。 <授業> ○児童が「話したい」「相談したい」と感じる場面で意図的に対話を仕組んだことで、児童が意欲的に学び合えるようになってきた。 ○考え表現する力がつき、ふりかえりの内容の質が向上した。 △各学年でつけるべき力を確実に身につけ、基礎学力の向上を図る必要がある。 △対話を通して考えを深めたりまとめたりすることができるような、対話の質の向上に課題がある。

育成する資質・能力	課題発見・解決力	コミュニケーション力	挑戦する力
めざす子ども像	低学年 ○身近な問題に対して疑問をもち、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割に責任をもつ力 ○自分の考えを伝える力	○学級・学年や家族の一員であることを自覚し、主体的に学ぶ力
	中学年 ○地域や社会の問題に対して、もっている知識を関連付けて考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割や言動に責任をもつ たり、助け合ったりする力 ○自分の考えを伝え、相手の考えを比較してしながら聴く力	○学校や地域の一員であることを自覚し、主体的に学んだりチャレンジしたりする力
	高学年 ○様々な問題に対して、もっている知識や経験等をフル活用して考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割や言動に責任をもち共感的に聴きながらアイデアや知識を共有し深める力	○地域・社会の一員であることを自覚し、持続可能な社会に向け、主体的に学んだりチャレンジしたりする力
	1年 ○目と耳と心で聴くことができる。 ○言葉・数・情報を用いて根拠をもって表現できる。	○目と耳と心で聴くことができる。 ○言葉・数・情報を用いて根拠をもって表現できる。	○自分の人生を切り開いて豊かな未来を創ろうと学び続ける態度を養おうとしている。
	2年 ○一人一人が自分の考えをもって他者と対話することができる。	○他者と話し合い考えを比較し統合しながらより良い考えを創造できる。	○自分の人生を切り開いて豊かな未来を創ろうと学び続ける態度を養おうとしている。
3年 ○日常生活の中に課題を見つけ出し自分の知識を総動員して答えを導き出す。	○他者との関係を協調的に築きながら自分の考えを発信し仲間と課題解決する。	○自分の人生を切り開いて豊かな未来を創ろうと学び続ける態度を養おうとしている。	
研究	テーマ 「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」 ～見通し・対話・ふりかえりの学習過程を大切に全員参加の授業づくりを通して～ 内容等 児童の実態・疑問をもとにした課題設定と学習の見通し 学びの深まる対話方法の選択・実施 全員参加を目指した授業づくりに向けての教材研究	めざす授業の姿 児童の実態・疑問をもとに課題設定し、学習の見通しを立てて学びを進める授業 対話により自分の考えを広げたり深めたりして学び合い、全員が学びに向かう授業	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家北学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	加付評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	加付評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	主体的で対話的な学びを通じた学力の定着	★	新規	主体的に学びに向かい、粘り強く学び続ける授業づくりを通して学力向上を図る	○授業の中で必然性のある対話を設定し、主体的に児童が学べる場面を設定する。研修等を通して、課題と取組の共有を全職員で行う。  ○学力の定着を図るため、各学級の実態に合わせてスキルタイムで復習を行う。	○算数科の知識・技能において、単元テストで設定されている平均点以上の児童 <b>全校児童の70%以上</b>	○算数科の知識・技能において、単元テストで設定されている平均点以上の児童 <b>平均点以上の児童の割合 69.2%</b>	4	3	○夏期研修で学んだことを2学期以降の授業で必ず実践すること(改善課題)を再認識し、100%授業の中でやり切らせる。  ○スキルタイムでのプリント学習を継続して行い、できなかった問題を克服させる。  ○1時間の授業の中で、数多くの問題を解かせる。	○算数科の知識・技能において、単元テストで設定されている平均点以上の児童 <b>平均点以上の児童の割合 70.1%</b>  ○スキルタイムで、現在の学習内容だけではなく、これまでの内容もさかのぼり行った。(分散学習)	3	4	4	○学年に合った学習時間が定着していないので、宿題の内容・量などを吟味し、効果的に行えるようにする。  ○対話の時間はしっかりと取っているが、ドリル学習がまだ少ない。基礎学力の定着を図るために、ドリル学習(分散学習)を行う時間も取り入れる。
3	児童がいいきと学べる学校づくり	★	新規	児童のよりよい生活習慣の確立	○学級活動や日常の指導、保健委員会の啓発活動を通して、睡眠時間の重要性についての認識を高める。  ○保護者と協力、連携し、「7つの目標カード」を作成する。取組週間を設ける。	○「就寝時刻(低学年9時・中学年9時半・高学年10時)を守っている」 <b>児童肯定的回答 80%以上</b>	○「就寝時刻を守っている」 <b>児童肯定的回答 81%</b>  ○「7つの目標カード」を作成し、学級懇談会で家庭への協力を呼びかけた。取組週間を設定した。	3	3	○就寝時刻を守れていない児童を把握し、個別に声をかける。  ○委員会活動や学級活動で睡眠について扱い、児童の意識を高める。  ○参観日の学級懇談会等で議題として取り上げ、親も巻き込んだ取り組みとする。  ○学校だより、学年だより、学級だより、HP等々で広く理解を求める。	○「就寝時刻を守っている」 <b>児童肯定的回答 75%</b>  ○学級懇談会で家庭への協力を呼びかけた。 ○取組週間を設定し、個別に指導した。	3	2	3	○就寝時刻を守れていない児童を把握し、個別に声をかける。  ○学級活動で睡眠について扱い、児童の意識を高める。  ○取組内容について保護者に周知し、協力してもらう。  ○取り組み期間の実施時期についても再考する。

		継続	<p>体を動かすことの楽しさに気づき、自ら体力づくりに取り組む態度の育成</p>	<p>○朝の会でのストレッチとグーパー運動を毎日行い、習慣化する。</p> <p>○運動する機会を増やすためにスポーツウィークを設定し、友達と体を動かすことの楽しさに気づかせた。</p>	<p>○「自分は外遊びや体力づくりを進んでいる」 児童肯定的回答 80%以上</p>	<p>○「自分は外遊びや体力づくりを進んでいる」 児童肯定的回答 77%</p> <p>○朝のストレッチと運動は習慣化できた。</p> <p>○気温が高くなり、スポーツウィークを設定できなかった。</p>	3	3	<p>○学級の係活動やスポーツウィークの取組を通して、外遊びをする機会を増やす。</p> <p>○1日1回は外遊びをすることを基本として声をかける。</p>	<p>○「自分は外遊びや体力づくりを進んでいる」 児童肯定的回答 79%</p> <p>○朝のストレッチと運動は習慣化できた。</p> <p>○スポーツウィークでは、ほとんどの児童が外遊びや体力づくりを行うことができた。</p>	3	3	3	<p>○学級の係活動やスポーツウィークの取組を通して、外遊びをする機会を増やす。</p> <p>○1日1回は外遊びをすることを基本として声をかける。</p> <p>○運動や外遊びが苦手な児童に対する指導を考えていく。</p>
3	保護者・地域に信頼される学校づくり	継続	<p>地域の人材と協働した学校づくりを進め、地域や保護者の学校の教育活動に対する満足度を高める</p>	<p>○地域の人材や教材を生かしたカリキュラムマネジメントを行う。</p>	<p>○「わが子を駅家北小学校に通わせて良かったと感じている」 保護者肯定的評価 95%以上</p> <p>○各学年、年間2回以上地域の人材や教材を生かしたカリキュラムマネジメントを行う。</p>	<p>○「わが子を駅家北小学校に通わせて良かったと感じている」 保護者肯定的回答97%</p> <p>○地域の人材や教材を生かした回数は、1年1回、2年1回、3年2回、4年3回、5年0回、6年1回であり、カリキュラムマネジメントを行った。</p>	4	3	<p>○HPや「すぐーる」への配信等で、効果的に情報発信をする。</p> <p>○地域の人材バンクを整理し、積極的に地域の人材や教材を生かしていくことで、カリキュラムマネジメントを行う。</p>	<p>○「わが子を駅家北小学校に通わせて良かったと感じている」 保護者肯定的回答 96%</p> <p>○地域の人材や教材を生かした回数は、1年2回、2年3回、3年4回、4年5回、5年4回、6年3回であり、次年度へ向けたカリキュラムマネジメントを行った。</p>	4	4	4	<p>○保護者や地域への迅速で丁寧な対応を行うと共に、地域の人材と協働する。</p> <p>○学校の取組を積極的に継続して発信する。</p> <p>○次年度からのコミュニティースクールのスタートにあたり、地域の人材や教材について学年のバランスを考えて整理する。</p>

3	教職員が元気で、児童に向き合える学校づくり	継続	<p>業務改善を通して、やりがいや達成感を高める</p> <p>○研修等による授業の充実を通して、教職員のやりがいや達成感を高める。</p> <p>○「業務の見える化」を工夫し、計画的に効率よく、業務に取り組めるようにする。</p>	<p>○「仕事へのやりがいや達成感を感じている」 教職員肯定的評価 90%以上</p>	<p>○「仕事へのやりがいや達成感を感じている」 教職員肯定的回答 97%</p> <p>○夏季休業中に、授業研修や、業務の見える化として提出期日一覧表を提示した。</p>	3	4	<p>○学力向上研修等、焦点を絞って研修を行う。</p> <p>○引き続き、「業務の見える化」を工夫し、効率よく業務に取り組めるようにする。</p> <p>○職員との対話を大切にし、しんどい思いをしていないかを常に配慮する。</p> <p>○社会科の授業研究と一緒にあって取り組み、面白い授業づくりを共に目指す</p>	<p>○「仕事へのやりがいや達成感を感じている」 教職員肯定的回答 97.5%</p> <p>○冬季休業中に、授業研修や、業務改善に向けての話し合いの場をもち、業務の見える化として提出期日一覧表を提示した。</p>	4	4	4	<p>○計画的に業務に取り組めるように、スケジュール管理をする。</p> <p>○校内授業研修日や、教材研究日を活用し、授業の充実を通して、教職員のやりがいを高める。</p> <p>○研究教科である社会科の研究を次年度も深化させていく。</p>
---	-----------------------	----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------	---	---	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	---	---	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。